



■丹波市立 農の学校 4期生の皆さん

みのり 農の学校へようこそ

知っていますか？有機農業が学べる学校

「丹波市立 農の学校」（丹波市市島町）は、新規就農をめざす人を対象とした全日制の農業学校です。年齢や経験の有無にかかわらず、農業栽培の技術（有機無農薬栽培や丹波市の特産物栽培）、農業経営、農村文化を学び、自ら実践することができます。

問 農林振興課（春日庁舎内）☎ 74-1465



■農の学校のこれまで

第1期

土づくり、販路開拓



田から畑作への転換や有機野菜栽培の土づくり、農作物の販路開拓、マルシェやイベントへの参加。

第2期

夏期のサマータイム制度を導入



気候に応じた農業を実践。コロナの拡大により、座学講義については、リモートにて実施。

第3期

栽培ハウスの本格稼働



プロの栽培管理やスピードに触れる講義、栽培ハウスの本格稼働、農作物のネットによる販売の開始。



みのり 農の学校の取り組み

**栽培実習**

年間の栽培計画をもとに専任講師の指導を受け、少量多品目で年間約40品目の栽培を行います。

マスター農家研修

市内で有機農業や特産品栽培に取り組んでいるマスター農家のもとで、実際の農業経営を学びます。

農業機械講習

農機具メーカーや販売店の方を講師に招き、機械操作・安全・メンテナンス方法について学びます。

出荷調整作業

栽培した作物は、自分たちの手で計量、袋詰めし、相場を見ながら価格を決めて出荷します。

地域のなりわい講座

丹波市の暮らしやなりわい、地域資源循環の現場などを視察し、農業+αの「生きる知恵」を学びます。

ゼミナール

卒業後、自身の進路にスムーズに移行できるよう、営農計画や作付け計画、ビジネスプランの作成を行います。

座学講義

農業技術や経営、データ活用について、業界トップクラスの講師陣から実践的に学びます。

販売実践

マルシェでは消費者の方々の生の声を直接聴きながら販売の経験と、消費者目線を養います。

イベント企画・交流

毎年地域の方々への感謝を込めて、感謝祭を開催しています。また卒業した先輩との交流もあります。

在校生にインタビュー**岡崎 舞さん (35) 東京都江戸川区出身**

私はもともと肌が弱く、食べるものは安全で安心なものが良いと思っていました。そこで、「有機農法で自分が野菜を作り、食べることができれば」と思い、農の学校に入学。

今も虫が苦手で農業者としては未熟ですが、将来的にはSNSなどを使いながら積極的に情報発信し、私と同じ悩みを持つ人の参考になればと考えています。



安全安心な野菜を作りたいと笑顔で話す岡崎さん

丹波市産、有機 JAS 認証

かける思いに夢と実が膨らむ

西垣俊彦さん(41)
農の学校1期生
丹波市柏原町出身

農の学校卒業後は、市島地域にほ場を借りて就農しました。農の学校からも近く、卒業後も教えてもらいに通うこともありました。ちなみに、私が借りているほ場は全て耕作放棄地だったのです。これはこだわりではなく、借りた場所が偶然にもそうでした。正直、開墾からはじめるのは大変ですが、奇しくも、私たち農の学校の1期生は授業で使うほ場の開墾からかわっていたことがあります。学んでもらったことを生かすことができ、むしろ良かったと思っています。

卒業後は市島地域で独立就農

祖父が米農家で子どもの頃によく田んぼで遊んでいました。そんな経験から、農業にはなじみがあり、いつか私も挑戦してみたいと思っていました。そんな時、出身地である丹波で農の学校が開校することを知り、縁を感じてリターンし、入学しました。農法に特にこだわりはありませんでしたが、学校に通ううちに、土づくりや微生物の活動など、有機農業の奥深い世界に引き込まれました。

農業にあこがれ、縁を感じてリターン

野菜の成長を観察しているときが一番楽しい

収穫の時期は出荷調整などで慌ただしく、気が休まることがあります。農業は大変でしんどいと感じることはよくありますが、同じくらいに楽しいと感じているのは、野菜の成長を見ているときです。手がかかるほど、我が子の成長を見守る親のような気分になります。畑に椅子を置いて、ゆっくりと野菜を眺めたりもしますね。ほかにも、苗の近くで雑草を無心に抜いている時間も好きです。作業に没頭していると、他事を考えずに済み、時間が経つのを感じることができますので良いですね。

使う肥料はすべて丹波市産をめざす

現在、有機JAS認証の取得に向けて奮闘しています。農業を始めたばかりなので、まだこだわりといったものはないですが、将来的には畑で使う肥料の全てを丹波市産でまかなえるようになります。これからも有機農法に磨きをかけながら色々なことにチャレンジしていきたいですね。

一風変わった？カボチャを栽培



ひょうたん型の実がなる、バターナッツカボチャや生でも食べができるというサラダカボチャを栽培。

農作業の効率化に日々研究



秋野菜の栽培に向け、太陽熱消毒中のほ場。奥には実験用の農地で成功し、試行中の敷き藁をひいたほ場が広がります。

ここが私の農の場！



もともとはすべて耕作放棄地でした・・・！

理想の田舎暮らしを求める

農業の世界へ

牧秀矢さん(60)

農の学校1期生
大阪府大阪市出身



肥料や害虫対策に知恵を絞る

私は大阪の特別支援学校で教師をしていました。勤務先の学校にある畑の手入れや、家庭菜園をするなど、これまでにも野菜を育ててきました。昔から、田舎でのんびり暮らすことにあこがれ、田舎暮らしといえど、農業かなとずっと考えていました。そこで退職後は、理想の田舎暮らしを実現するために、農の学校で農業を一から勉強することに決めました。

卒業後は春日地域で就農し、大阪との二拠点生活を営んでいます。農業歴3年目となる現在は肥料を工夫しながら害虫対策を行い、農の学校で学んだ有機農法で約20種類を超える野菜を栽培しています。収穫した野菜を友人や親族に配るのが一番の楽しみです。特に娘はスイカが大好きなんです。喜ぶ顔を見るために、今年も挑戦します。

失敗を恐れず、何でも挑戦

栽培してみたものの、収穫のタイミングが分からず、腐らせてしまったものや、天候に恵まれず、不作になつたりするなど、これまたたくさん失敗をしてきました。



試しに植え、収穫できたワサビ



「娘が喜ぶ顔が見たい」とやさしい表情でスイカの世話をする牧さん

農業でたくさんの人とつながる

今でも農の学校の生徒が視察に訪れたり、地域の農家の方が遊びに来たり、お互いに情報交換をしています。また、大学時代の友人が私が作った野菜を通して丹波市を知り、訪ねて來ることもありました。農業を通してつながった縁を大切にしながら、理想の田舎暮らしを追及したいです。

それでも、今は色々な事に挑戦しています。3年前、畑作業中に、ワサビが育ちそうな場所を見つけ、試しに植えてみたら今年、見事に収穫できました。農業に挑戦することで、こうした発見や出会いがあり面白いです。あとは、いつ実が成るかなとワクワクしながら、作付けのスケジュールや組み合わせを考えるのも楽しいですね。

推し野菜のおかひじき



家族や友人からは、めずらしいと評判。軽く茹でて、ポン酢で食べるとシャキシャキしておいしいとのこと。

有機農法のパートナーの鶏



昨年から飼い始めた鶏。害虫などを食べ、鶏糞などは肥料としても利用し、大切な農業のパートナーに。

みのり ここが私の農の場!



農ある理想の田舎暮らし、詰まっています・・・

育てた野菜を使った
カフェを開きたい

田舎暮らしにあこがれ
転職を機に丹波市へ

高山正さん(35)
農の学校3期生
神奈川県横浜市出身

西田瑠衣さん(26)
農の学校2期生
西宮市出身

あこがれを実現するために、農の学校へ

農地が全部で
30町あります。
毎日の草刈りが
大変です…



農の学校で学んだ有機農業を実践しつつ、一部の作物は先進技術を活用した農業にチャレンジしています！



就農先の農地でドローンを操縦



前職では自動車の整備をしていた高山さん。農作業で使用する機械の整備や、農業用ドローンの操縦も行います。

昨年から就農先で子牛を世話



朝と夕に行う子牛のミルクやりの様子。人懐っこく、農作業での疲れを癒してくれる存在に。

自分で作った野菜を扱うカフェを開店したいと思い、仕事を辞めて農の学校に入学した西田さん。

転職を機に自営業をしながら田舎で暮らしたいと考えていたところ、奥さんから実家のある、丹波市で農業をすることを勧められ、農の学校に入学した高山さん。

二人は農の学校を卒業後、農業会社「山茂」に就職し、野菜や水稻、果樹の栽培に加え、和牛の世話などを担当しています。

西田さん 学校では有機農法についてたくさんことを学びました。なかでも、土づくりについて学んだことは今とても役立っています。例えば、肥料効果の速攻性と持続性を向上するため、米ぬかや酒粕、納豆菌といった有機肥料に土を加えて発酵させる肥料を自家製で作っていますが、これは学校で学んだことの一つです。ほかにも土壌調査を行い、足りない要素などを確認し、より良い土になるよう日々研究しています。

西田さん 作物ごとの発育や虫のことなど、まだまだ勉強不足です。ここで働きながらさらには有機農法の勉強や、地元の方からもアドバイスを貰いながら、丹波市であこがれのカフェが開店できるように頑張ります。

高山さん 有機農法は草対策が大変です。夏は水管理や台風対策など、こまめに対応しなければなりません。どう効率よくできるかが、今まさに課題です。日々研究しながら頑張ります。

みのり
ここが私たちの農の場！



丹波市が取り組む環境にやさしい農業

■ 土づくりへの取り組み

市では耕畜連携の拠点として市立市島有機センターを運営しています。「土づくり」は農業の基本であるとの考え方のもと、安全に地力を高めていくために、牛糞堆肥を製造、販売しています。

また、この施設で製造された牛糞堆肥は有機JAS規格の認定を受け、「有機JAS規格に基づく使用可能資材リスト」に登録されています。こうした堆肥を活用することで、農業の土壤改良・地力増進を図り、農産物の品質向上をめざしています。現在、化学肥料が高騰する中、化学肥料や農薬などの化学合成物質に頼らない農業への転換に活用してください。



堆肥ストックヤード

堆肥の販売などの
詳細は[こちら](#)



■ 有機農業を支援する補助制度

有機JAS認証推進事業

環境にやさしい農業に転換し、安全安心な農産物および加工品の生産を営むことを支援します。

■ 対象者 / 有機JAS認証事業者

■ 補助対象経費 / 有機JAS認証申請費

確認料、検査料、調査料、講習会受講料および会員登録料など

■ 補助率 / 有機JAS認証に要する経費の10分の8以内（補助限度額10万円/10円未満切り捨て）

■ 必要書類 / 補助金交付申請書、登録認証機関の認証（認定）証または確認証の写し、認証経費の領収書の写し、補助金請求書

土づくり対策事業

環境にやさしい農業をめざし、有機質堆肥の投入による土づくりを実践する農業者を支援します。

■ 対象者 / 肥料販売業務開始届出を提出した業者から市内で生産された堆肥を購入し、かつ同一の業者に散布を依頼した者

■ 補助対象経費 / 堆肥代を含む散布費用

■ 補助率 / 敷布費用の5分の1以内（10円未満切り捨て）

■ 必要書類 / 補助金交付申請書、堆肥散布にかかる領収書の写し（市島ユーキを利用の場合は不要）、補助金請求書

■ 環境にやさしい農業にむけた今後の取り組み

農業生産者の育成を推進

新たな農業技術の習得など、産地全体での生産技術の向上に向けた取り組みや、農の学校での新たな担い手の確保など有機農産物の新たな需要の取り込み、生産者の育成を推進します。

農業生産者、消費者を巻き込む取り組みの推進

有機農業の拡大に向けた推進体制を構築する「オーガニックビレッジ宣言」を行い、展示会への出展など、農業生産者と消費者を巻き込む取り組みを推進します。



「環境にやさしい農業」についてのイメージや日々の暮らしで感じていることなど、みなさんの意見をお聞かせください！



技術講習会の様子



展示会への出展の様子

意見箱
 QRコード